

図書館講演会開催報告

2018年11月11日

報道されなくなったシリア内戦 ～「今世紀最悪の人道危機」のその後～

東京外国語大学教授の青山弘之先生をお招きしご講演いただきました。一時は日本でも大きく報道されたシリア内戦ですが、いつの間にかその機会は減りました。今回はその理由を探りながら、内戦の過去と現在、そして今後についてお話いただきました。



講義は青山先生が今年9月にシリアを訪れた際の写真と映像から始まりました。首都ダマスカスの旧市街にはモスクからのアザーンが響き、シリア人の人懐こさも内戦前と変わらぬものだったそうです。一方で同じ市内でも攻撃を受けた地域には戦闘の傷跡が残ります。内戦のきっかけは、民衆による反政府デモ、いわゆるアラブの春と言われますが、実際は単なる政府対反体制派の争いではないようです。

欧米諸国はアサド政権独裁を批判し、政府と敵対するアル＝カーイダ系組織を支援、イスラーム国を含む過激派組織の台頭の一因となりました。一方ロシアやイランもシリア内政への不干渉を表明しつつ実際はテロとの戦いと称して軍事介入を行いました。こうした国外からの干渉により深刻化したシリア内戦は、内戦というよりむしろ国際紛争と呼べるのかもしれませんが。

内戦が長引く中、欧米諸国の関心はISの撲滅やシリア政府の化学兵器使用疑惑の真偽に移行し、これらは日本でも報道されました。しかし、トランプ大統領就任後にISに対する攻撃が増加し、事実上の崩壊を迎えると日本での報道はめっきり減ってしまったのです。

現在は残存したシリア政府を軸に、ロシア主導で復興が進められています。復興を目指しボランティアに従事し、職業訓練や教育を受ける市民の姿は印象的でした。しかし、民主化の実現は遠く、アサド政権に対する欧米諸国の姿勢が復興の妨げとなるなどの問題も残っています。シリアの人々が本当に必要とする暮らしと描かれる理想に向かう手段との間には差があり、シリアにとっての最善の選択とは何か、問われています。

今回の講演会では、「分かりやすい解説で疑問点が解消された」、「頭の中が整理できた」といった感想を多くいただきました。中には「今まであまり関心を持たなかったが、これを機に勉強していきたい」との声もあり、今後の学びにつながるよい機会になったと思います。

「関連する本のリスト」には、当館で所蔵している青山先生の著書やシリアに関する資料を掲載しました。ぜひ手に取ってみてください。